

工場・倉庫・事業所の経営者・ご担当者へ

太陽光、うちの会社は導入すべき？

電気代削減・費用回収の判断ガイド

電気代は、どれだけ下がるのか。

かけた費用を、何年で回収できるのか。

見積もりを比べる前の確認事項を、1冊に。

採算

費用・削減額・回収年数

条件

補助金・屋根・保証

比較

3社比較・導入判断シート

読むだけで終わらない、記入式シート付き。

自社で判断する場合も、社内で共有する場合も使えます。

本資料は、法人施設で使う電気を賄うための太陽光設備を、

自社で購入・所有する場合を中心に扱います。

個別の設置可否・削減額・回収年数・補助金受給を保証するものではありません。

株式会社エナジーリンクス

2026年9月版 v1.0

01 / 最初に整理

判断は、3つに分ける。

「太陽光は得か」ではなく、「自社の条件で導入する価値があるか」を確認します。

1 費用に見合うか

初期費用だけでなく、運用費・交換費と、使い切れる電気を確認。

2 設置・運用できるか

屋根の状態、建物の利用予定、所有者の承諾などを整理。

3 同じ条件で比べたか

容量・工事範囲・試算条件が違う見積もりを、価格だけで選ばない。

まず、わかる範囲だけ記入してください

確認すること	自社の状況
施設と建物の利用権限	施設： ☐ 自社所有 ☐ 賃借 ☐ その他 ☐ 不明
今後の建物の利用予定	利用予定： 年程度／不明 屋根修繕・移転・建替え予定：
電気を使う曜日・時間帯	稼働日： 時間帯： 土日・長期休業中の使用：
電気の利用明細	☐ 手元にある ☐ 取り寄せる ☐ まだ不明 まずは月別の使用量と料金を確認
今回、確かめたいこと	☐ 電気代削減 ☐ 費用・回収 ☐ 補助金 ☐ 設置可否 ☐ 他社提案との比較 ☐ その他

空欄がある＝導入できない、ではありません。

不足情報を整理するためのシートです。建物・電気契約・設置可否は、関係者や施工会社に確認して埋めていきます。

02 / 費用

「設置価格」だけでは、比べない。

初期投資・毎年の支出・将来の交換費を分けると、見落としを減らせます。

費用の区分	見積もりで確認すること
設備・標準工事	パネル、パワーコンディショナ（PCS）、架台、配線、設置工事など。機器の型番・数量・容量を確認。
追加工事・手続き	足場・搬入、屋根補修や補強、受変電設備の改修、連系・申請など。必要性和まれる範囲を確認。
運用中の支出	点検・監視、保険、固定資産税等。誰が負担し、試算にどこまで含まれるかを確認。
将来の支出	PCS等の交換・修理、屋根修繕時の撤去再設置、設備の撤去・処分。時期と費用の置き方を確認。

比較するのは「同じ範囲の総額」。

「設備一式」だけでは、追加費用の有無がわかりません。
見積書の対象範囲・別途費用・除外項目を、書面で確認してください。

見積書に、これを質問する

この金額以外に必要な費用は何ですか。
未確定の費用は、いつ・どの条件で確定しますか。

税込・税抜をそろえる

見積額と削減額で、税の扱いを混在させない。税額控除・減価償却の扱いは税理士等へ確認。

補助金は別枠にする

補助金なしの金額と、補助金を仮定した金額を分ける。未確定の補助金を受給済みとして扱わない。

03 / 削減額・回収

「何年で回収」の前提を見る。

削減額が大きくても、費用が抜けていれば、採算を過大に見積もってしまいます。

電気代削減の中心は、「買わずに済む電気」です

年間自家消費電力量 (kWh)

✕ 実際に削減できる購入単価 (円/kWh)

年間発電量のすべてを、自社で使えるとは限りません。稼働日・時間帯・季節差を反映し、自家消費できる量を確認します。売電収入は、削減額と分けて確認してください。

基本料金の削減効果は、契約条件と根拠を別途確認。請求合計を使用量で割った単価を、そのまま削減単価にしないでください。

回収年数は、分子と分母を確かめる

単純回収年数 $\asymp$ 初期投資額 $\div$ 年間収支差額

年間収支差額は、電気代削減額と売電収入から、毎年の維持費・保険・税等の支出を差し引いた概算です。含めた費用を必ず明記します。

計算方法を説明するための仮定例 | 相場・導入実績ではありません

初期投資額	年間電気代削減額	毎年の運用費等
1,000万円	150万円	20万円

$$1,000 \div (150 - 20) = \text{約7.7年}$$

補助金・売電収入は計上しない仮定。将来の機器交換・撤去、借入金利、税効果、発電劣化、料金変動、資金の時間価値は未反映です。

この計算だけで、投資を決めない。

単純回収は比較の入口です。最終判断では年ごとの収支、交換・撤去費、借入条件、下振れ時の収支も施工会社等に確認してください。

04 / 補助金

補助金は、確認してから織り込む。

「補助金があるらしい」で、契約・着工を先に進めないようにします。

「使えるか」より先に、「何を満たす必要があるか」。

制度名だけで、自社の適用可否は決まりません。

必ず、その年度・公募回の最新の公募要領と窓口で確認します。

確認項目	確認する内容
対象	申請できる事業者、設置地域、建物用途、設備・容量、所有・導入方式は対象か。
設備・使い方の要件	自家消費、売電、蓄電池併設、対象機器、性能等に要件があるか。
手続きの順序	申請・交付決定・契約・着工・支払のどの順番が必要か。先に進めると対象外になる工程はあるか。
期限と予算	公募は現在受付中か。予算到達・締切・事業完了期限に間に合うか。
金額・併用・入金	対象経費、補助率・単価・上限、他制度との併用、入金時期、実績報告等の条件は何か。

見積もりは、2つの条件で確認する

補助金なし

受給できなくても導入するか。

自己資金・借入・運転資金への影響を確認。

補助金を仮定

どの制度を、いくらと仮定したか。

未採択・不採択・入金遅れの場合も確認。

本資料は全国の制度一覧や受給診断ではありません。税制優遇も補助金と同一ではなく、適用・併用・会計処理の確認が必要です。

05 / 設置・運用

屋根・保証・維持費も、導入条件。

安く導入できることと、長く安全に使えることを、分けて確認します。

確認する領域	施工会社・関係者に聞くこと
屋根・構造	屋根材・築年・図面・劣化・荷重条件を踏まえ、何を調査するか。補修や補強は必要か。
防水・建物の利用	固定方法、雨漏りへの対応、既存の屋根保証への影響、将来の修繕時の撤去再設置をどう扱うか。
所有者・契約	賃借の場合、所有者の承諾や賃貸借契約上の条件はどうなっているか。移転・契約終了時はどうするか。
機器・工事の保証	製品保証・出力保証・施工保証を区別。期間、対象外条件、申請窓口、作業費・交通費の負担は何か。
点検・故障時	点検内容・費用、監視の担当、異常時の連絡先、復旧対応・交換費の範囲は何か。
停電時の利用	停電時に何へ、どれだけ供給できるか。自立運転・切替・蓄電池等、必要な設備と制約は何か。

「屋根が広い」「日中稼働」だけでは、設置可否を断定しない。

現地調査や資料確認の結果、補修・補強・別案の検討が必要になることがあります。安全確認は自分で屋根に上らず、専門業者へ依頼してください。

質問例

設置してよいと判断した根拠と、
現時点で未確認の条件を教えてください。

数字と条件を、同じ表に並べる。

価格だけでなく、採算・施工範囲・維持管理まで横並びで比較します。

見積もり前は空欄で構いません。数字が埋まっても、計算条件が違えば単純比較はできません。

比較項目	A社	B社	C社
見積日・有効期限	年 月 日	年 月 日	年 月 日
パネル / PCS容量	/ kW	/ kW	/ kW
初期投資総額※1	万円	万円	万円
補助金の仮定・確認状態	制度： 状態：	制度： 状態：	制度： 状態：
年間発電量 / 自家消費率	kWh / %	kWh / %	kWh / %
削減単価・根拠	円/kWh	円/kWh	円/kWh
年間削減額 / 売電収入	/ 万円	/ 万円	/ 万円
年の維持費等 / 将来交換費	/ 万円	/ 万円	/ 万円
回収年数・含めた費用	年 費用：	年 費用：	年 費用：
屋根・防水 / 保証 / 点検	確認：	確認：	確認：
別途費用・未確認事項	確認：	確認：	確認：

※1 税込・税抜を統一し、補助金を引く前の総額を記入。容量・工事範囲が異なる場合は差を確認します。収支試算には、未反映費用と仮定条件も併記してください。

まだ1社も見積もりがなくても使えます。

最初の依頼時に、この表の項目を確認したいと伝えてください。添付のExcel版では、条件の整理と一部の概算計算ができます。

07 / 記入式・導入判断

自分の判断にも、社内共有にも。

埋めることより、次に確認すべきことが明確になることを重視してください。

今回の導入目的

例：電気代削減、設備投資の採算確認、停電対策。複数でも構いません。

判断に必要な数字

初期投資総額／年間収支／回収年数／将来費用。未確認は「未確認」と記入。

導入の前提・気になること

屋根、所有者承諾、補助金、資金、移転・修繕予定、社内の確認先など。

次に確認すること・担当・期限

何を／誰が／いつまでに確認するか。条件が不明のまま結論を急がない。

現時点の判断

☐ 比較見積もりへ進む ☐ 条件を追加確認する ☐ 今回は見送る

見送る場合の理由・再検討する条件：

08 / 自社条件で確認

資料で整理したら、個別の比較へ。

正確な金額や設置可否は、建物・電気の使い方・工事条件を確認してから。

次の一歩

自社条件で、費用と提案を 比較してみませんか。

導入を決める前でも、比較する条件を整理できます。

ソエルクは、法人向け産業用太陽光の一括見積もり比較サービスです。

1 無料比較を申し込む

サイトの無料比較フォームから、わかる範囲の情報を送信。

2 状況・紹介条件を確認

ソエルクから連絡し、導入の希望や必要な情報を確認。

3 施工会社の提案を比べる

条件に合う施工会社を最大3社ご案内。7ページの表で比較。

ソエルクで無料比較を始める →

panerou.com

見積もり依頼・比較サービスの利用は無料です。

設備の購入費・設置工事費が無料になるという意味ではありません。

地域や案件条件により、紹介できる会社数は異なり、ご紹介できない場合もあります。見積もり・紹介を希望した場合は、ソエルクおよび紹介先施工会社から連絡があります。

資料の取得は、見積もり申込や施工会社への紹介依頼とは別です。比較を希望する場合に、無料比較フォームへお進みください。

参考：S5、ソエルクトップページ。最終的な導入・契約の判断は、提案内容を確認のうえ行ってください。

09 / 出典・注意事項

判断の根拠を、確認できる形に。

出典は下記リンクから確認できます。図表・文章の転載ではなく、確認事項を編集しています。

参考資料・確認先

S1 環境省「はじめての再エネ活用ガイド（企業向け）」

購入方式の概要と留意点（15ページ）、蓄電池・停電対応の確認（27ページ）。資料の図表は転載していません。

<https://www.env.go.jp/content/000392100.pdf>

S2 太陽光発電協会「事業用太陽光発電システムとは」

パネル、架台、パワーコンディショナ等の機器構成と役割。

<https://www.jpea.gr.jp/industry/about/>

S3 太陽光発電協会「保守点検（O&M）について」

保守点検に関する技術資料の確認先。

https://www.jpea.gr.jp/feature/o_m/

S4 環境省「太陽光発電の導入支援サイト」

補助事業の確認先。個別の募集継続・採択・受給を保証するものではありません。

https://www.env.go.jp/earth/post_93.html

S5 ソエルク「サービス案内・会社概要」

運営会社、法人向けサービス、最大3社の案内。サービスの説明はトップページも参照。

<https://panerou.com/management/>

本資料の範囲

本資料は、法人施設の自己所有型・自家消費型太陽光の検討を支援する一般情報です。住宅専用、PPA・初期費用0円方式、投資用発電所の購入、蓄電池単体の導入ガイドではありません。

掲載のチェックシート・計算例は編集した参考資料であり、個別の技術・税務・法務・投資の判断に代わるものではありません。補助制度は更新されます。利用時点で公募要領・関係窓口を確認してください。

価格相場、成約実績、補助金受給実績を示す資料ではありません。相談データの個別情報や顧客発言は掲載していません。

発行：ソエルク／株式会社エナジーリンクス

情報確認日：2026年9月16日 | 版：v1.0

公式サイト：<https://panerou.com/>